



「本格M漫画」

ふろーらのいんてい

フローラの淫庭

前篇



絢爛たる妖花咲き乱れる人工熱帯。
ガラスの魔境に囚われたマゾ淫虫たち！

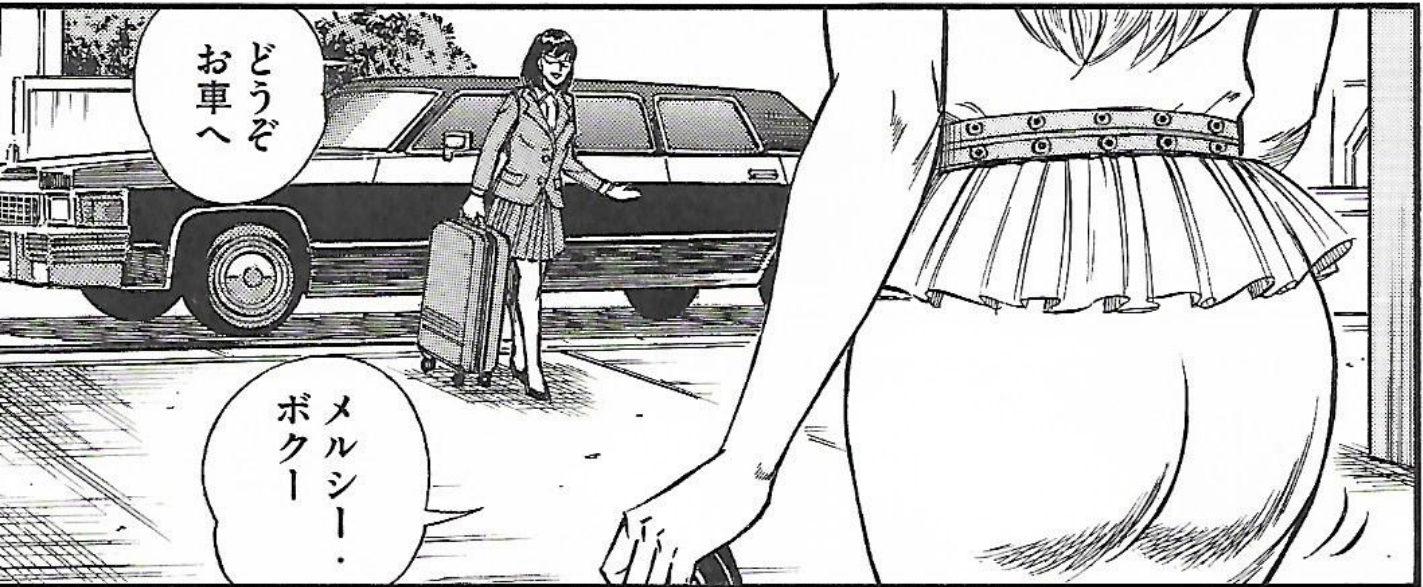
暗藻ナイト

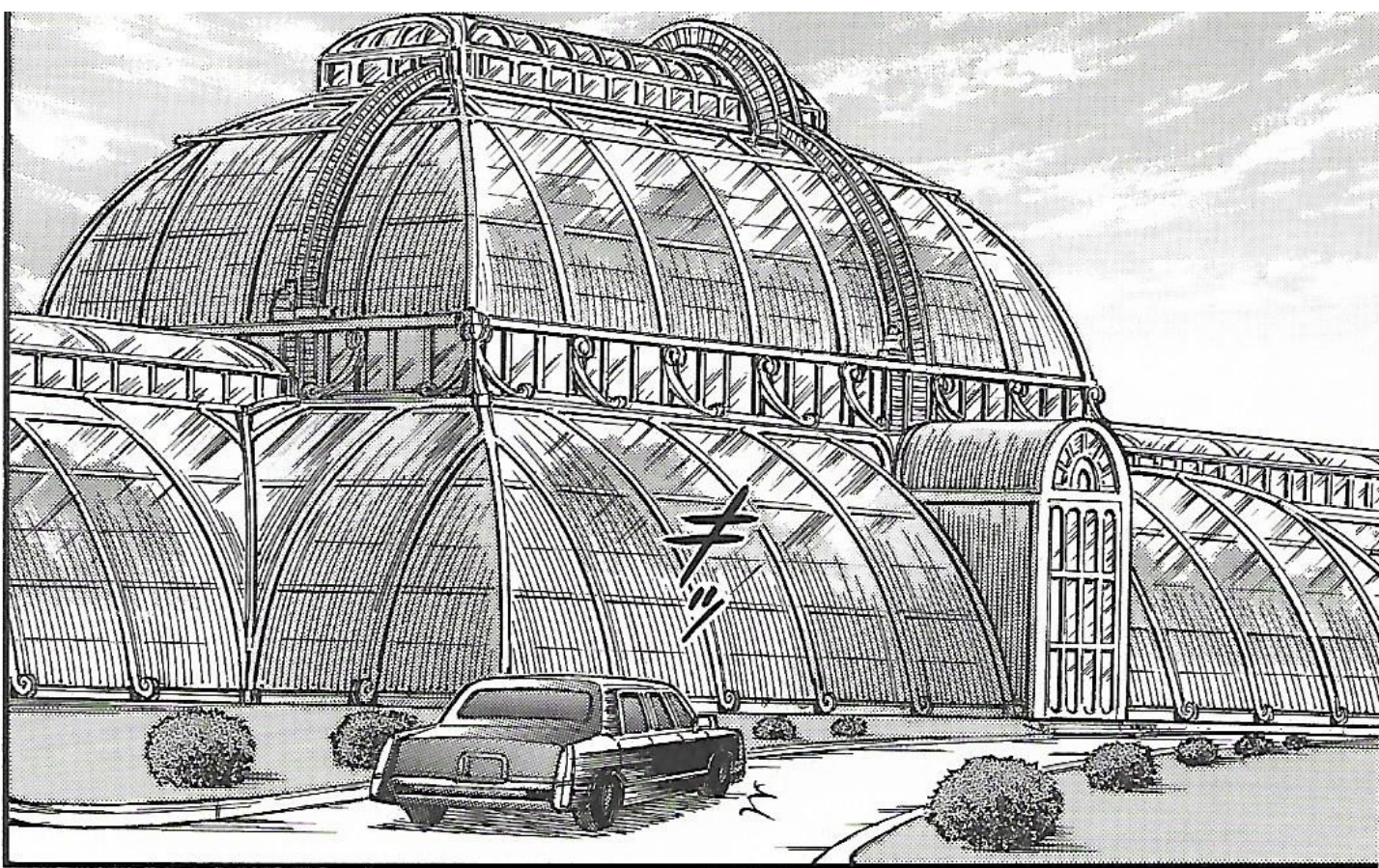


その日、成田空港に
一人のフランス人女性が
降り立った

マルグリット・ヴェール
24歳独身

先ごろ亡くなった母親の
日記を読んで、初めてその
存在を知った異父姉に
会うための来日だった





いらっしやい
マルグリット!



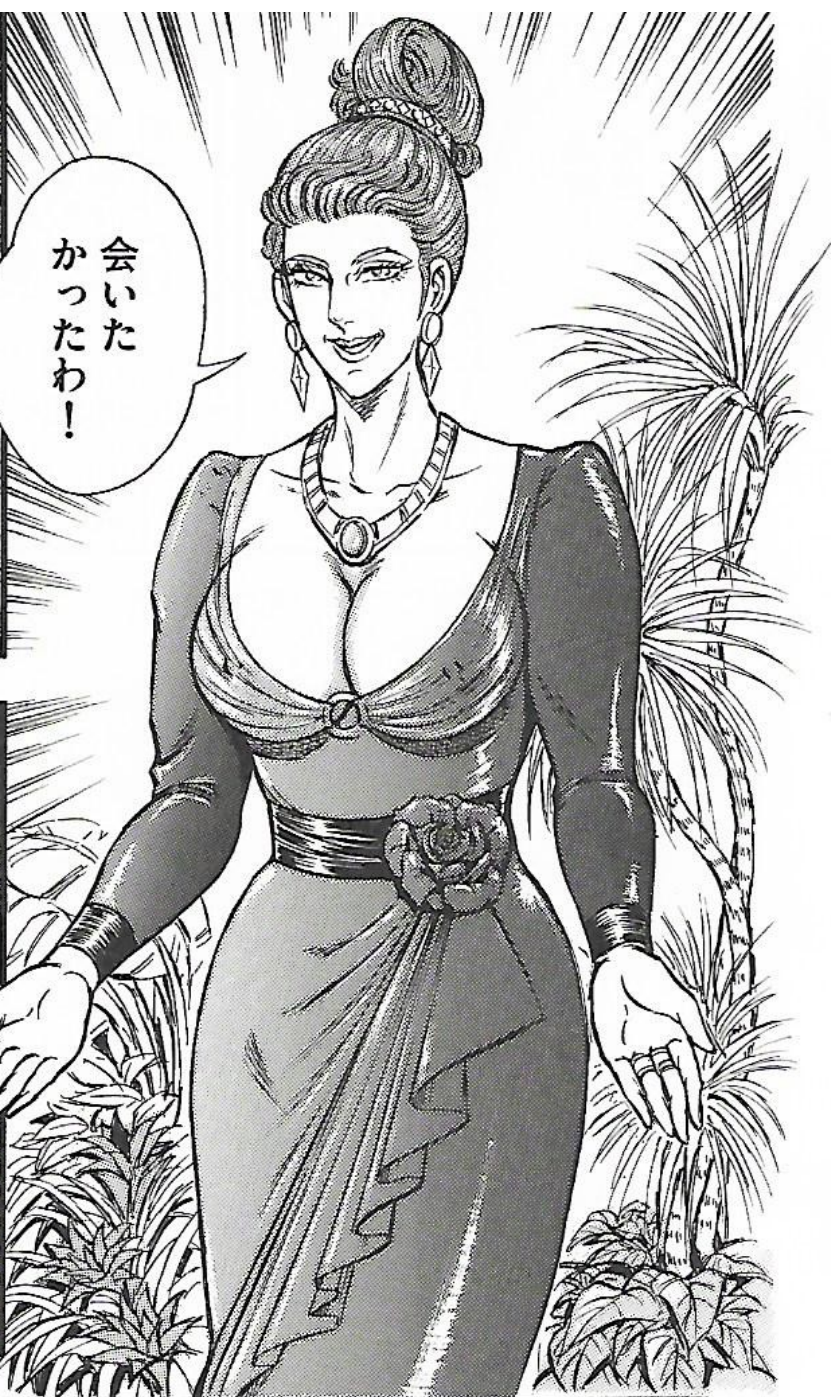
さようです
英国キュー植物園
の大温室を模した
建築でございます
—どうぞお入り下さい

驚いたわ
これは
温室ね!





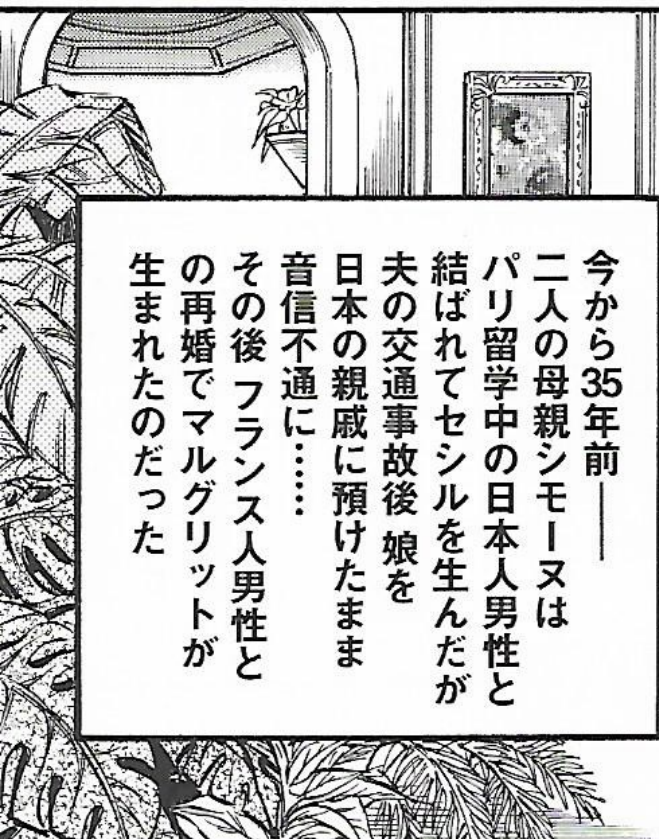
はじめまして
…セシルお姉さん



会いた
かったわ!



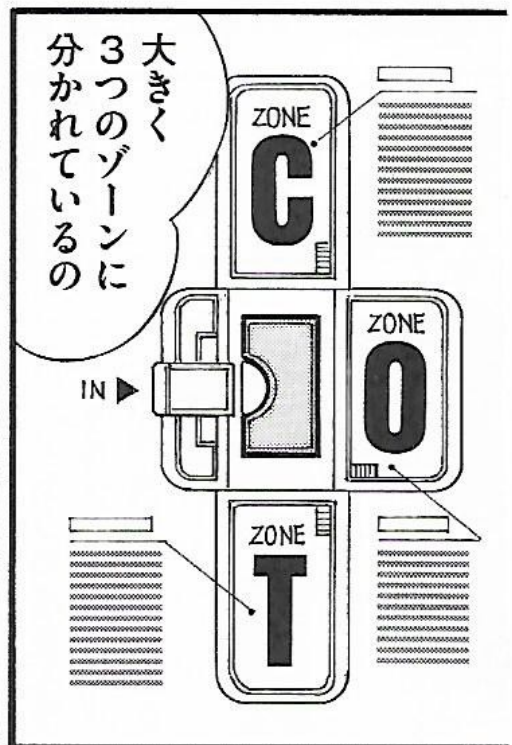
はじめまして
モン・スール!
(我が妹)

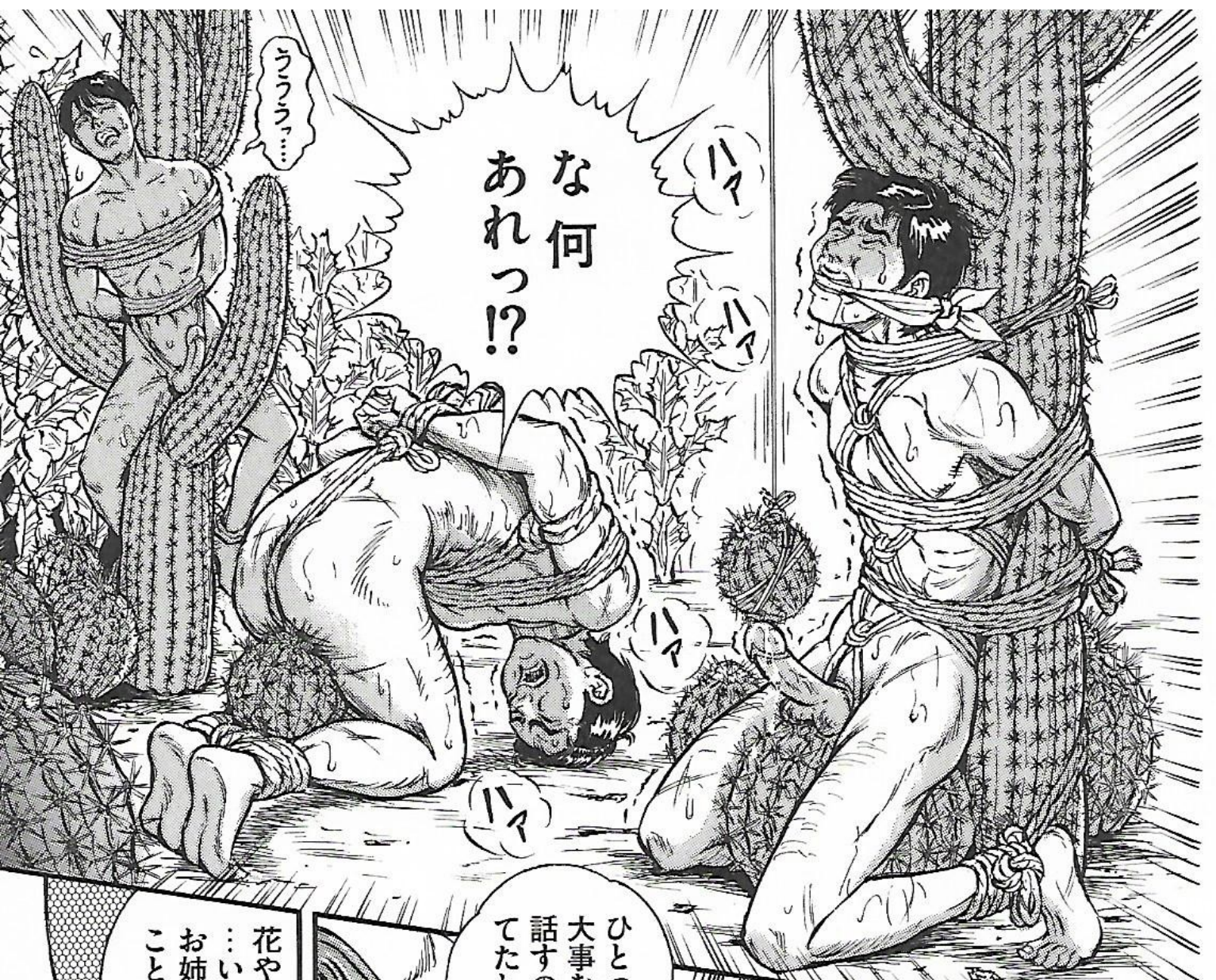


今から35年前——
二人の母親シモーヌは
パリ留学中の日本人男性と
結ばれてセシルを生んだが
夫の交通事故後娘を
日本の親戚に預けたまま
音信不通に……
その後フランス人男性と
の再婚でマルグリットが
生まれたのだった



姉妹は各々の
半生を語り合った





な何
あれっ!?

アアア...

ハア

ハア

ハア

ハア



花や植物と同じくらい
...いえそれ以上に
お姉さんが大好きな
こと...

それは—



ひとつ
大事なことを
話すのを忘れ
てたわ!



ホホホホ
驚いた?
マルグリット

ここれは
いったい...

こんな風に
男を苛める
ことよ!!



ムフフフ...

お姉さん

まあそんなに
怖い顔しないで
マルグリット

今にあなたも男を屈服
させ支配する快感が
分かってくるはずよ！

ここに囚われた
連中の大半は
被虐の劣情に溺れて
人生から落伍した
重度のマゾヒスト達よ

例えばこいつは
かつては高級なスーツを
着て紳士を気取っていた
某大学の元学長――

それが今や、パンツ一枚
穿くことも許されぬ
家畜同然の身分！





ほら！お前の
その卑しい口で
お客様にご挨拶を
するのよ！

そのあいだ私は
この鉦つきの
スパンキング・
ラケットで楽しま
せてもらうわ



もっと変態の
ブタマゾらしく
ブーツの裏まで
舐めしやぶる
のよ！



新
新
新



ヒイーンッ！
それだけは
お許し
下さーいっ！



ホホホホ
お前にはお尻
だけじゃ物足り
ないかしら？

今度は仰向け
になって
ペニスを
お出し！

ブルブル

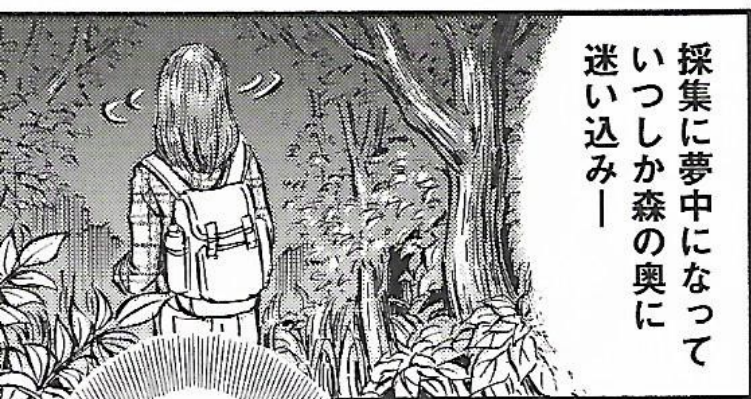
ハ

ハ



…でもお姉さん
なぜ男性を苛めるのが
好きになったの？
いつから？

そう…
大学3年生の
ある夏の事件が
きっかけかしら…



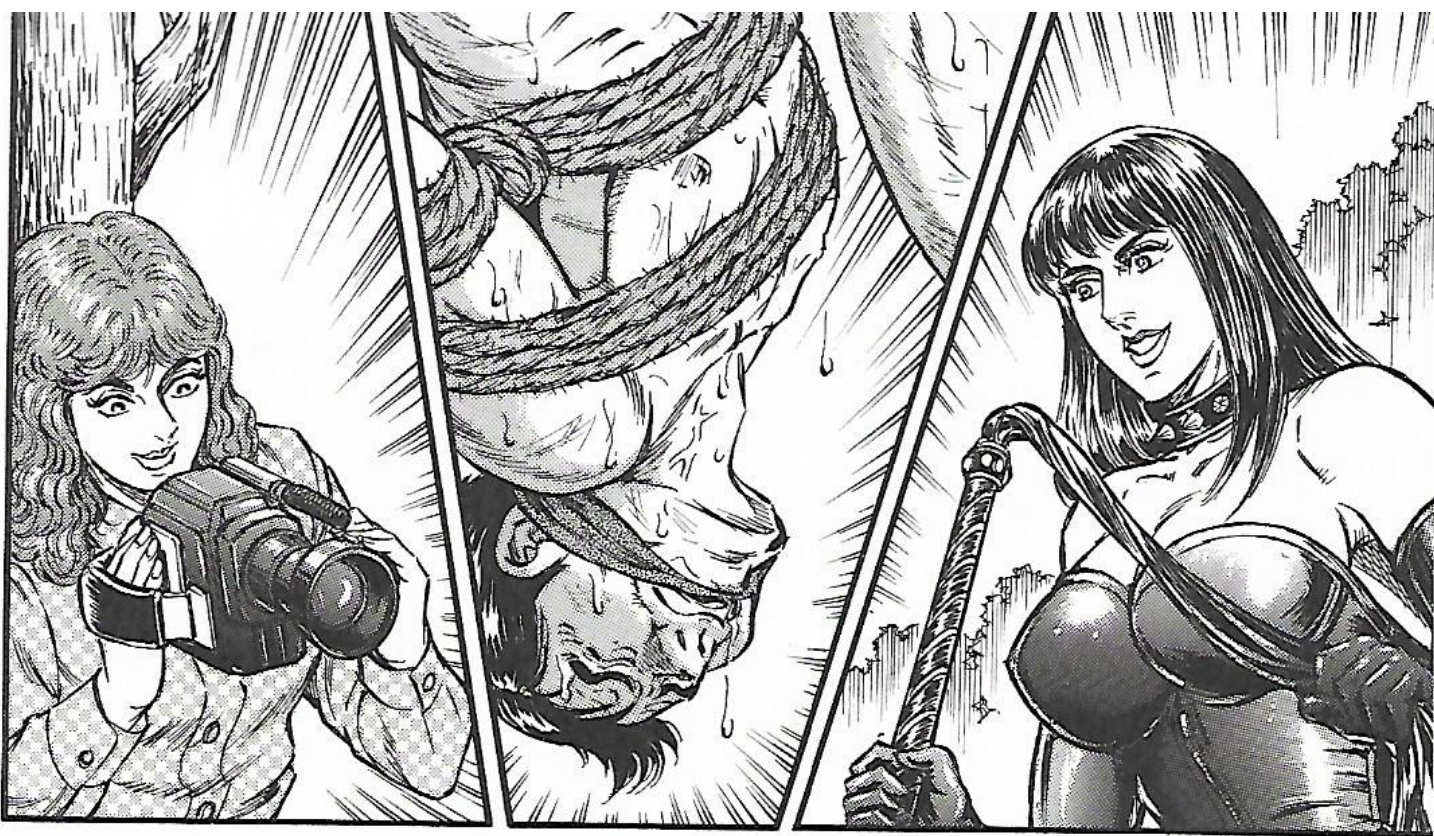
採集に夢中になって
いつしか森の奥に
迷い込み！

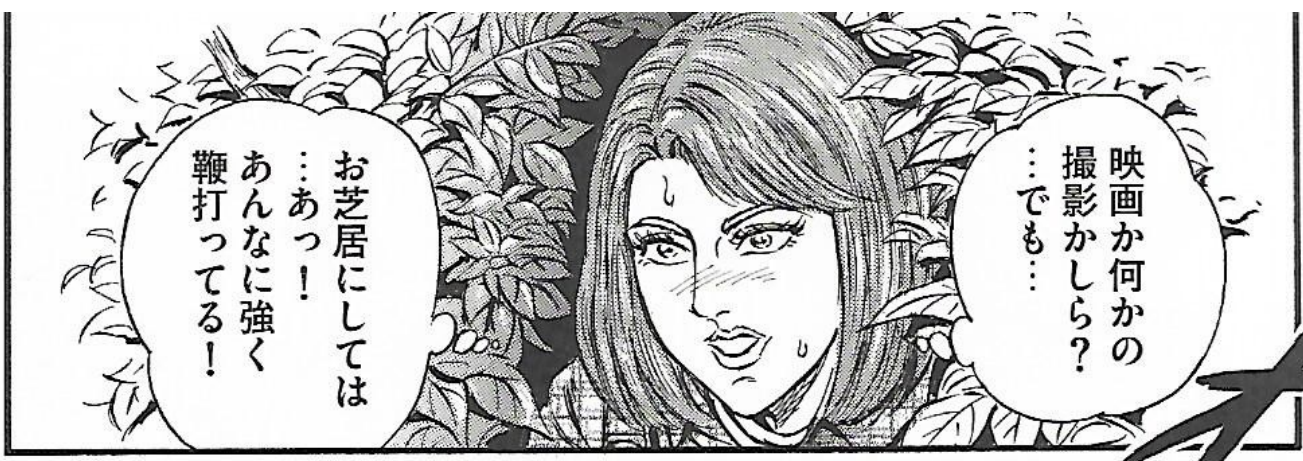


茂みの間から
ふと私が目に
したものは！



当時植物学者を
目指していた私は
卒論のテーマに選んだ
珍しい植物を
採集するために
ひとりて長野の山に
分け入った





映画か何かの
撮影かしら？
…でも…

お芝居にしては
…あつ！
あんなに強く
鞭打ってる！



今度は
人間
ブランコ！

…でも
男の人は
あんなに悲鳴を
上げてくるせに
何だかうっとり
してるようにも
見えるわ…

第一ペニス
が
ずっと大きく
なつたまま
だし…





一気がつくと私の股間は
じっとり濡れていたわ：



……



はっ！



あとになって
それは某マゾビデオ
会社の撮影だったと
分かったけどー

あの日を境に
私の中で
「何か」が
目覚めたの

「何か」
って？



さあ次は
ゾーンTよ！

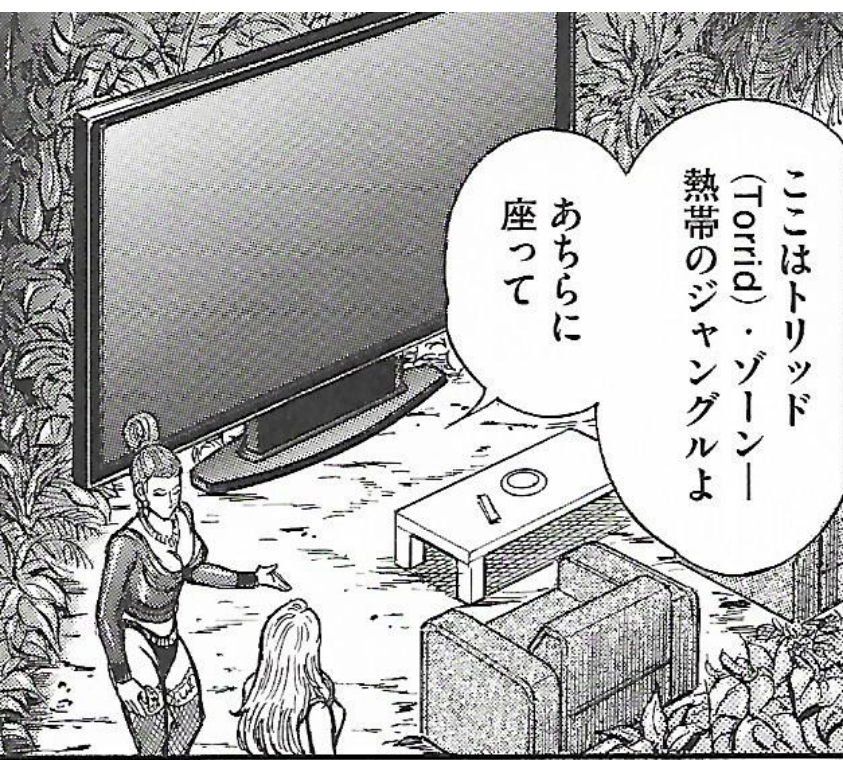


……だけど実は
私の心奥に眠って
いたサディズムは
はるかに根深い
ものだったの！

そのことは
あとで話すわ
……



私の場合ー
それは植物
への偏愛と
奇妙に絡み合った
屈折したサディズム

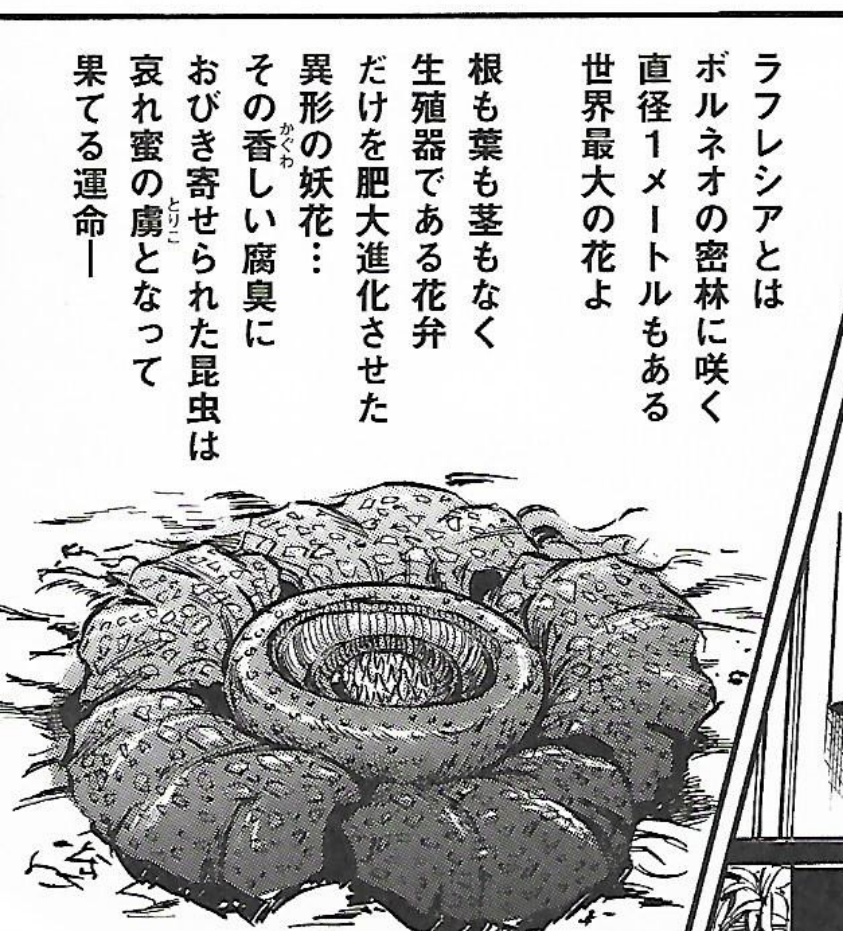


ここはトリッド
(Torrid)・ゾーン
熱帯のジャングルよ

あちらに
座って



私の経営して
いるお店の
ひとつを映像で
紹介するわ



ラフレシアとは
ボルネオの密林に咲く
直径1メートルもある
世界最大の花よ
根も葉も茎もなく
生殖器である花弁
だけを肥大進化した
異形の妖花：
その香^{かぐわ}しい腐臭に
おびき寄せられた昆虫は
哀れ蜜の虜^{とりに}となって
果てる運命――



これは
六本木にある
会員制SMクラブ
〈ラフレシア〉
の入口





ほーら私のお尻の
穴の臭いをよく
嗅ぎながら惨めに
果てるのよ！



このゾーンで
飼っている
二匹の奴隷に
「肥料」を
あげる時間だわ！



あら
そうだわ！



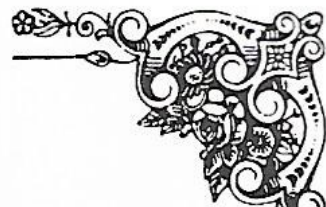
ほら
あれよ

お前たち
3時の
おやつよ
口を
お開け!

あわわわ...

今日もたっぷり
私の自家製肥料を
食べさせて
あげるわよ!

To be continued



「本格M漫画」

ふろーらのいんてい

フローラの淫庭

後篇



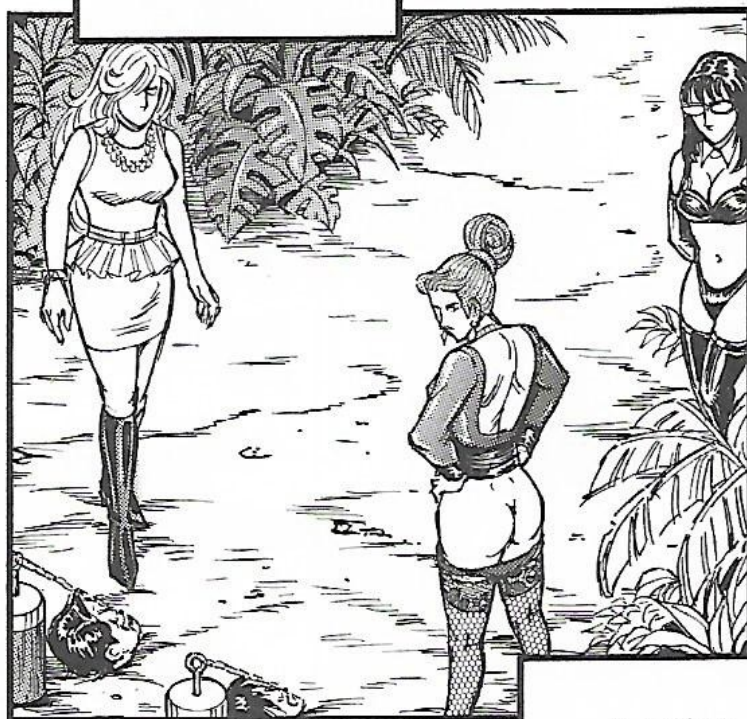
可憐なマドモワゼルの呪われしDNAが目覚めるとき
斯界最凶の「魔王」の血脈が二百年の時を越えて蘇る！

暗藻ナイト



南伊豆のとある岬に
燦然とそびえ立つ
ガラスの大温室――

それは日仏ハーフの
本格派ミストレス
滝川セシルが造った
調教ガーデンだった



今しもそこでは
卑しきマゾ男どもに
かぐわ
香しき、肥料が下賜
されようとしていた！





セシルのアシスタントの一人
沢口エリカ



かしこまりました

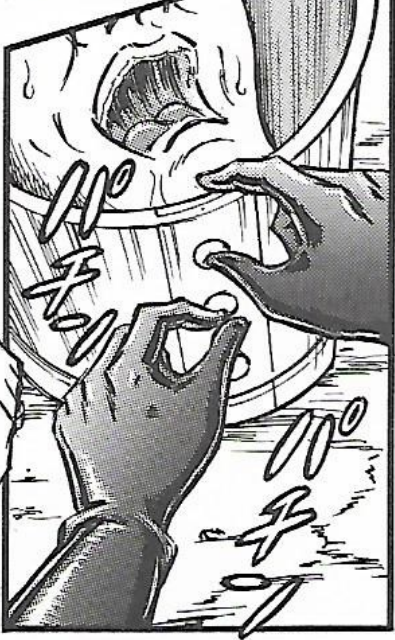
さあエリカ
植木鉢を
セツトして
ちようだい



ほらっ
ご挨拶を
するのよ!

はいっ

ほ 本日も…
セシル女王様
お手製の肥料を
ありがとうございます
いただきますっ!







ホホホ
ホホ!



! ああッ



ほーら
どんだん
お食べ!!

ホホホホ

おえ
えっ!

うげ
えっ!





じゃエリカ
残りも全部食べ
させておいてね

かしこまり
ました



お味は
いかが？

おいしいしゅう
めいになりますっ…



よくく嚙んで
ひとカケラ
残さず食べる
のよ！



ちよつと汗を
かいたから
シャワーを浴びて
着替えましょう

あなたの衣裳も
私のワードローブから
選んであげるわ

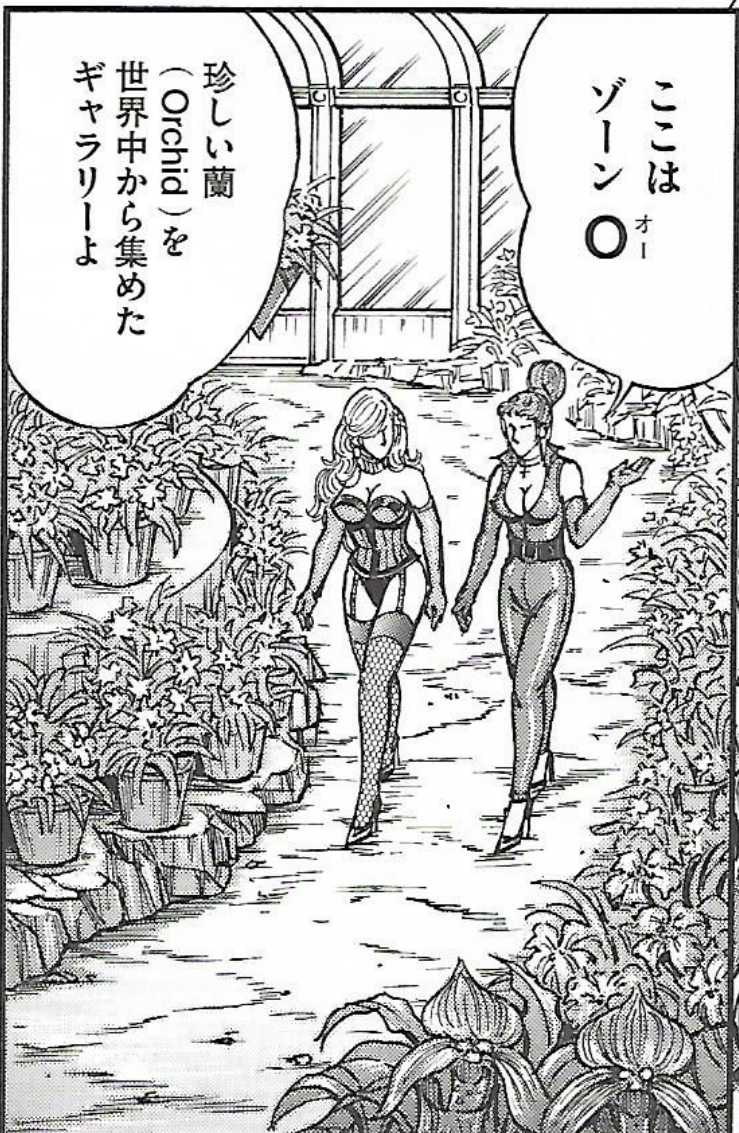


素敵よ
マルグリット!
クラシカルな
コルセットが
よく似合っ
てるわ

そそ
うかし
ら

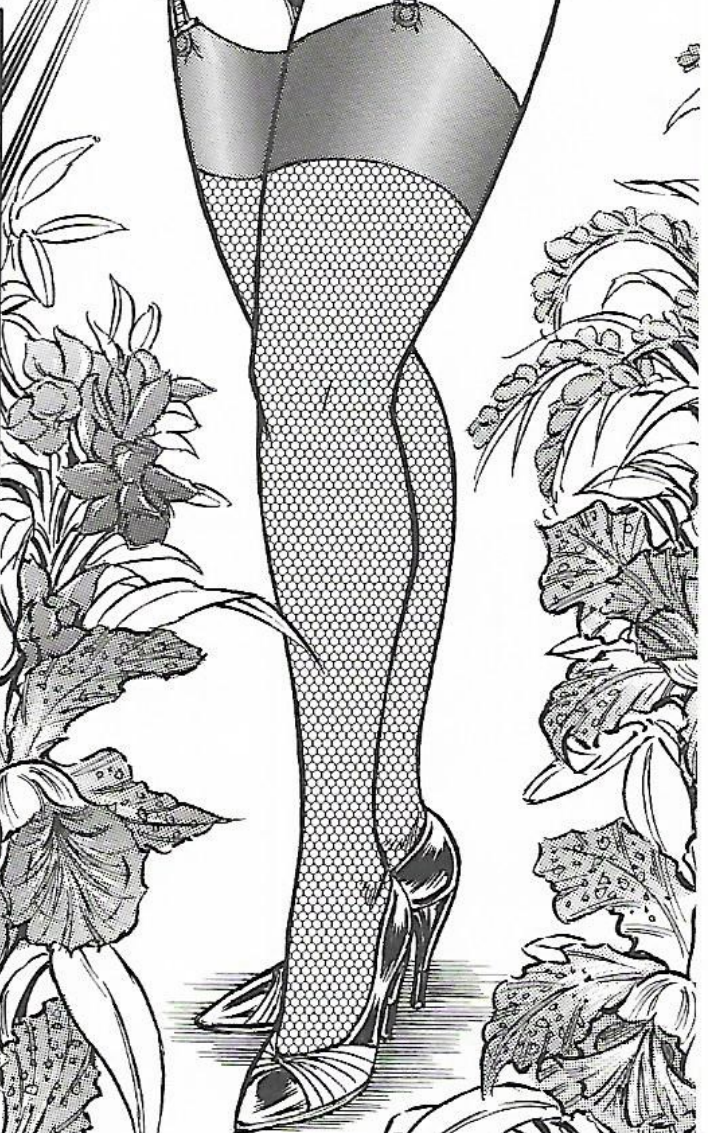


キッ



珍しい蘭
(Orchid)を
世界中から集めた
ギャラリーよ

ここは
ゾーン
オー



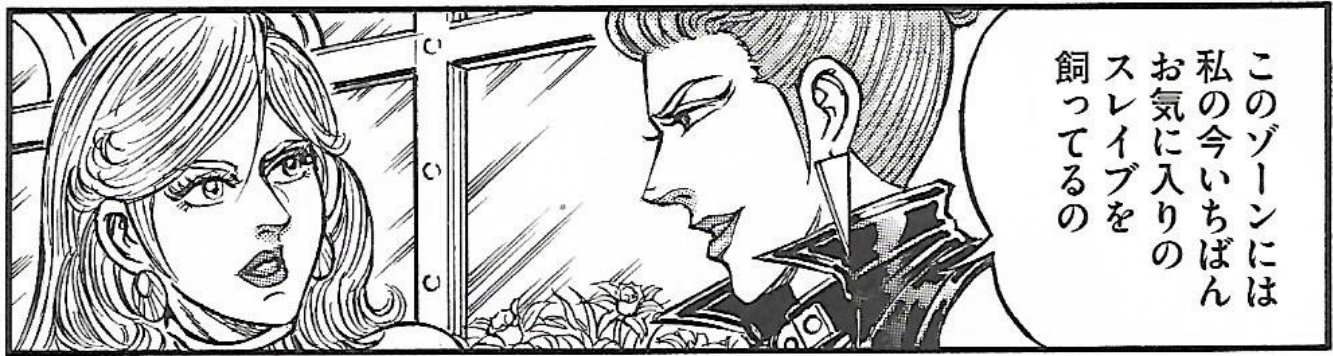


「ヴィーナスのはきもの
(パフィオペディラム)
なんてヒール・フェチの
男が聞いたら泣いて喜び
そうな品種まであるのよ



蘭はヨーロッパでは
昔から高貴さに加えて
頹廢的・悪魔的な花と
見なされてきたわ

肉贅のように幾重にも
重なった花卉の形は
ヴァギナを連想させず
にはおかないし——



このゾーンには
私の今いちばん
お気に入りの
スレイブを
飼ってるの



あれを
見て！

ミチルとサトル
——双子の
美少年マゾよ

ハァ

ブルブル

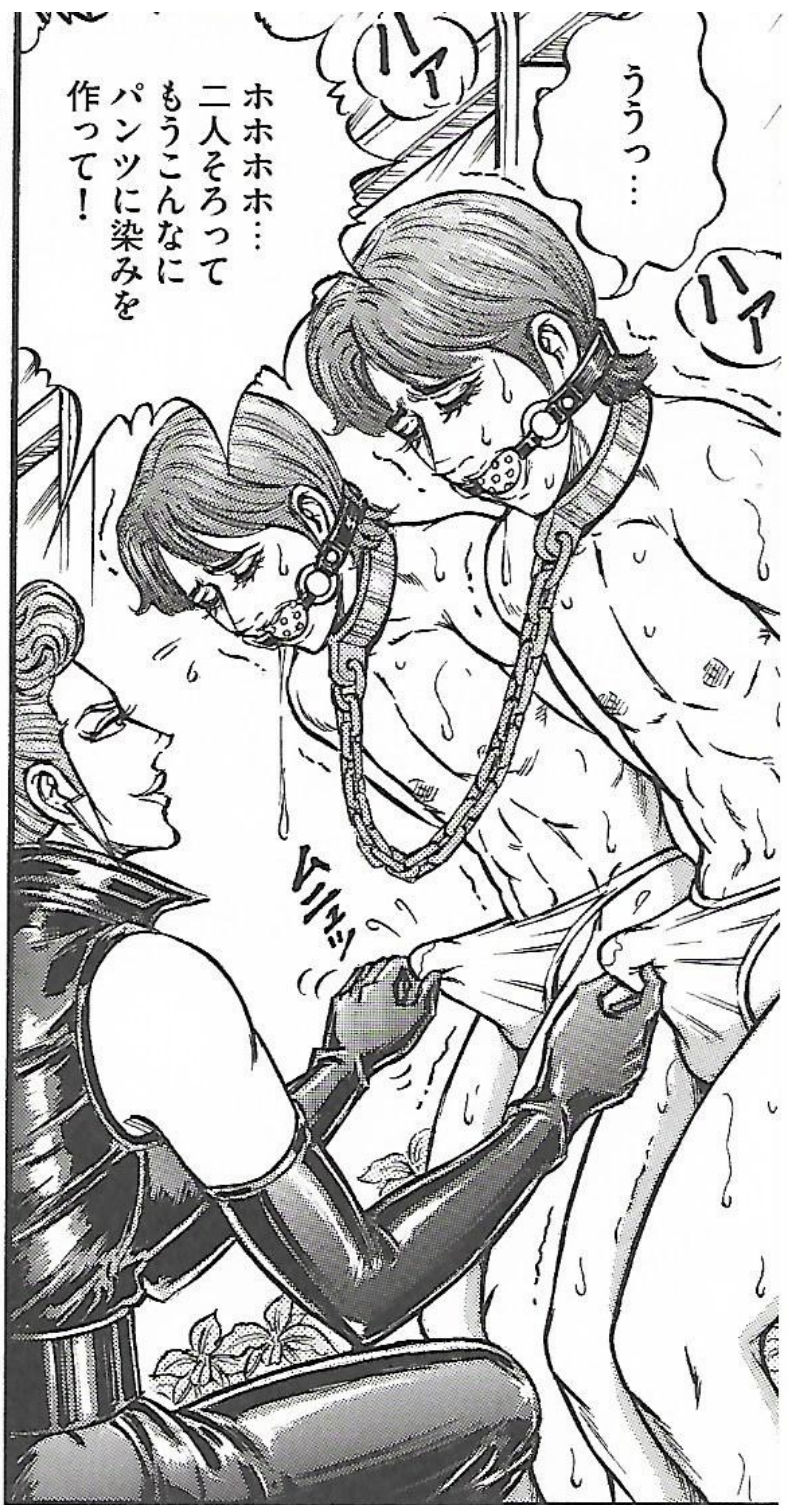
ハァ

ハァ

ゴッ

うっつ...

ホホホホ：
二人そろって
もうこんなに
パンツに染みを
作って！



ところで
マルグリット—
オーキッドという
蘭の英名は「罂丸」を
意味するギリシア語
オルキスに由来
するのよ



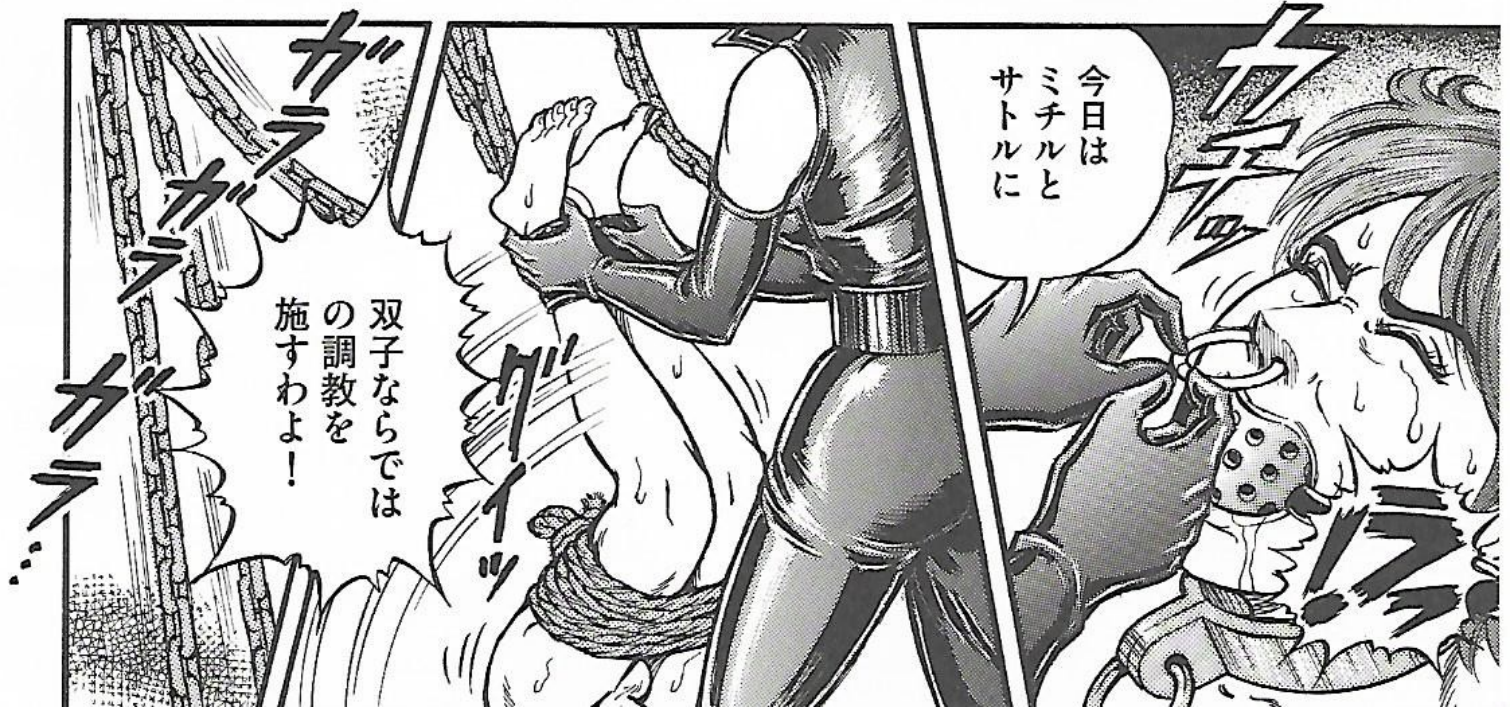
蘭の球根が
双子のような
二個一対の卵型
をしているから
らしいわ

イキッ



今日は
ミチルと
サトルに

双子ならではの
の調教を
施すわよ！





これから鞭で
たっぷり可愛い
がってあげるけど
双子らしく互いに
息を合わせて
動かないと――

さあ
お前たち

ヒイイツ!

ホ
ホ
ホ

ハア

ハア

ハア

ハア

くうっ

ズ
ブル

ゴムロープで
つながった大事な
ところが大変な
ことになるわよ!



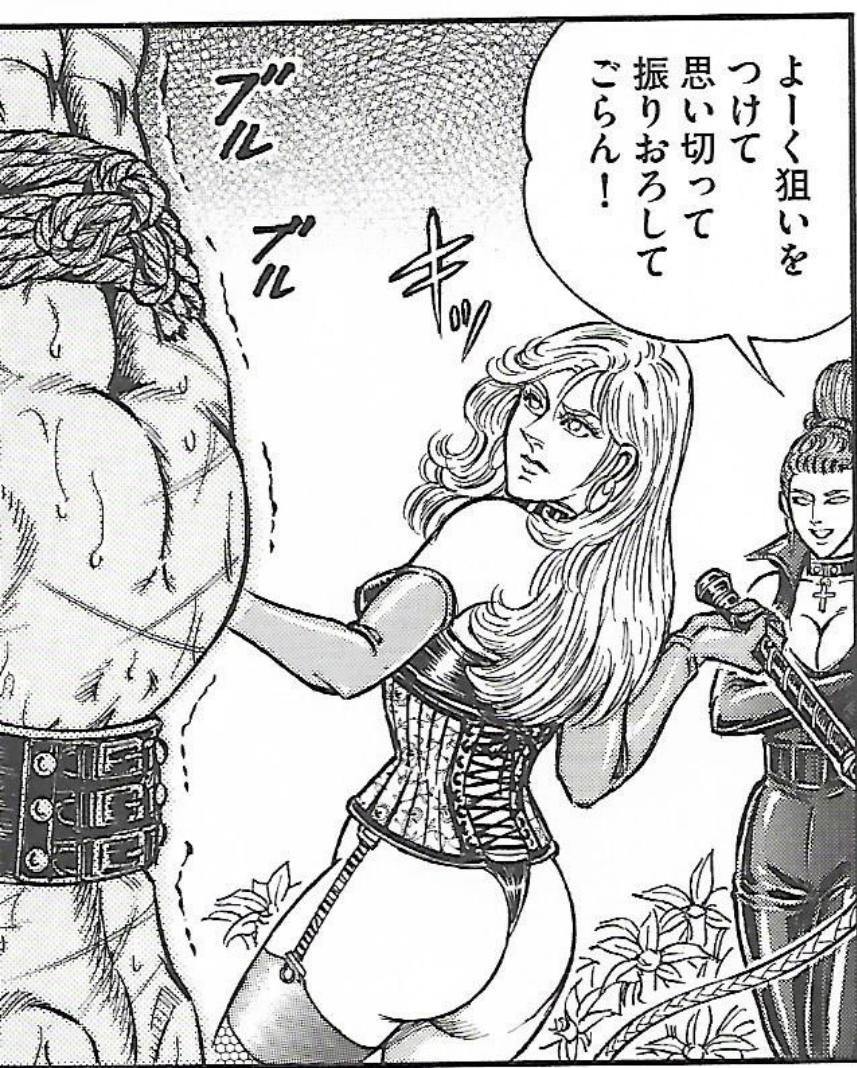


だいぶいい
色になって
きたわね



お許し
下さひっ!

ぐえっ



よーく狙いを
つけて
思い切って
振りおろして
ごらん!



さあ次は
マルグリット
の番よ

えっ!

でも...



大丈夫よ
ほらこの
鞭を使って





さあフィニッシュは
相互フエラで二人
同時にイキなさい

ふんっ...

出したミルクは
お互いに全部
飲み干すのよ!

そう！
マルグリット
その調子よ！

思ったとおり
天性の
癖はあだわ



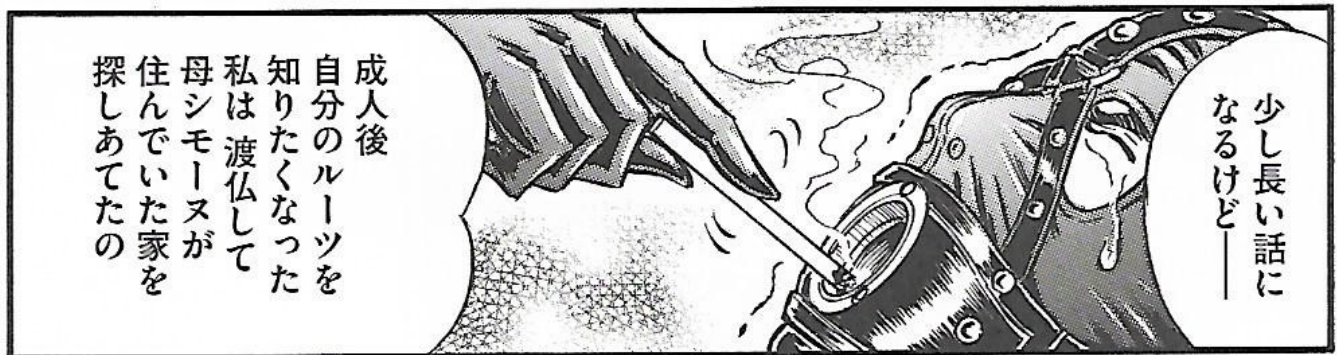
サド侯爵の
家系樹よ！



これは…誰かの
ファミリーツリー
家系樹かしら？

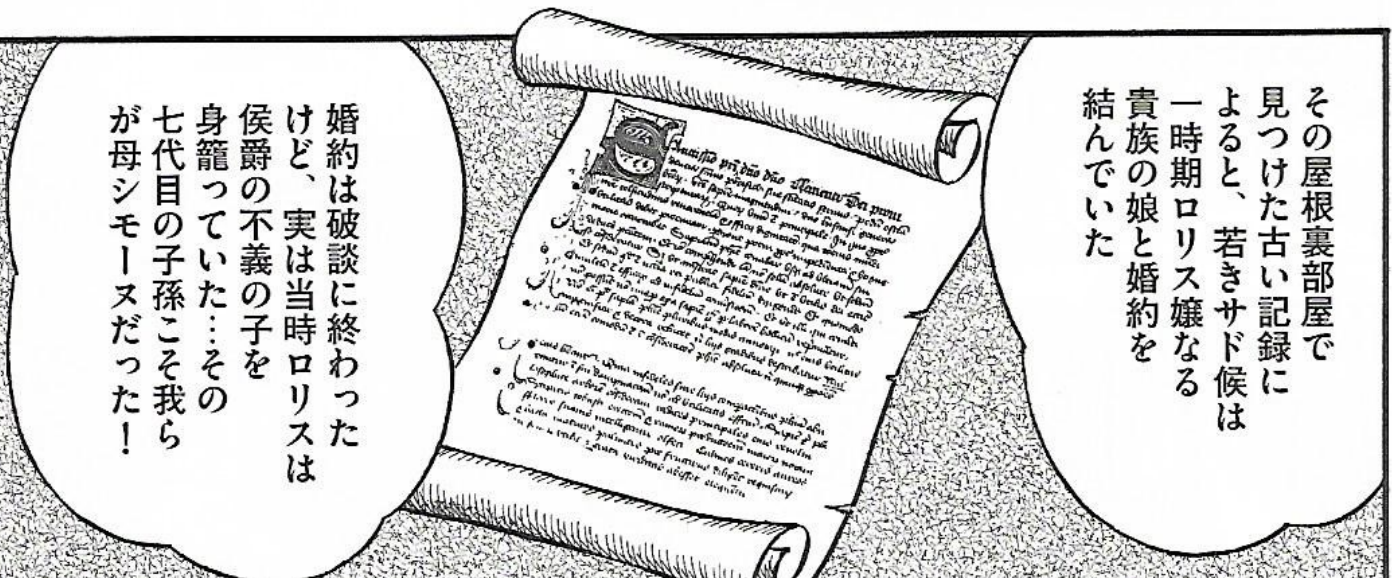


そう…これは
ドナチアン・アルフォンス・
フランソワ・ド・サド
すなわち――



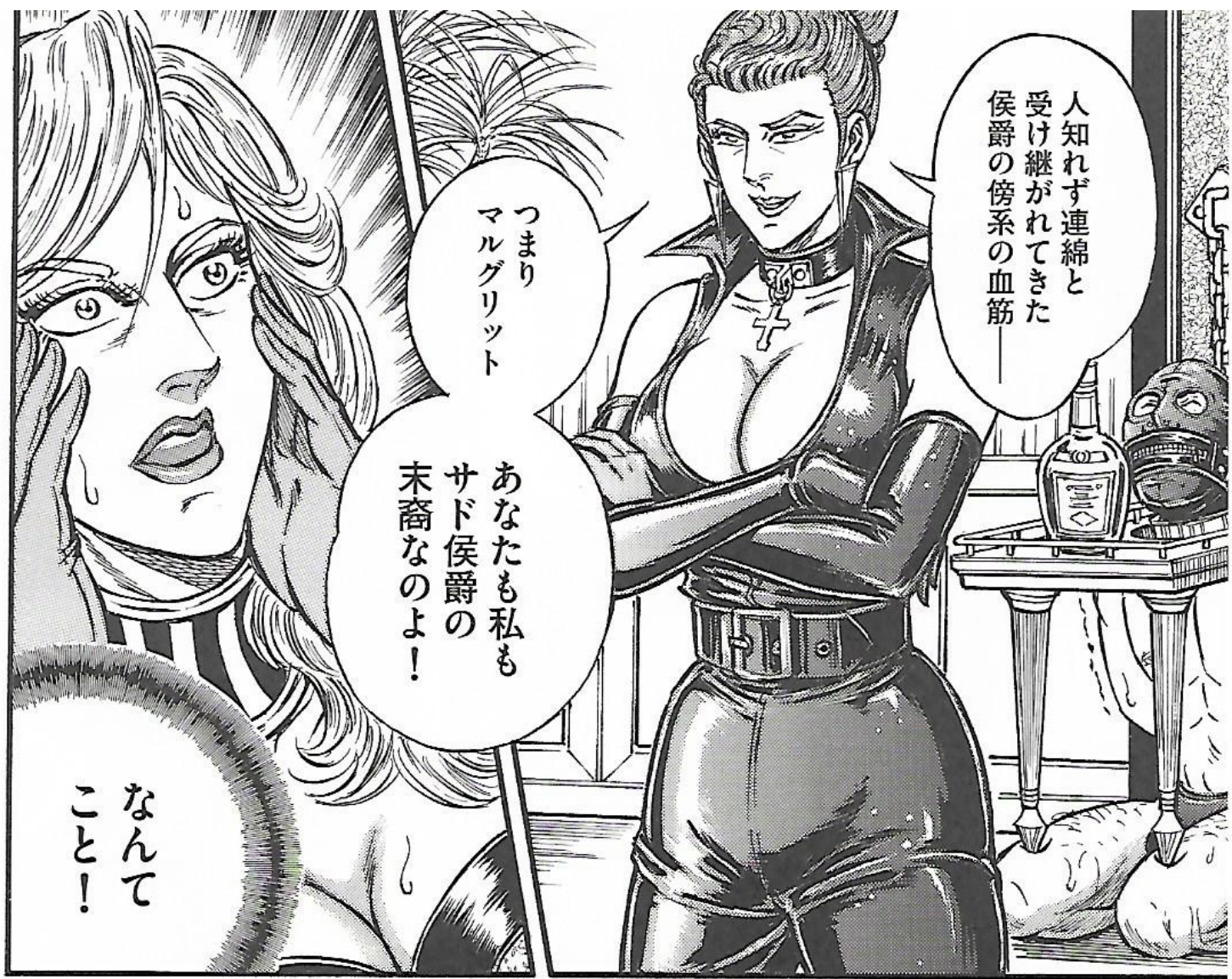
少し長い話に
なるけど――

成人後
自分のルーツを
知りたくなった
私は渡仏して
母シモーヌが
住んでいた家を
探しあてたの



その屋根裏部屋で
見つけた古い記録に
よると、若きサド侯は
一時期ロリス嬢なる
貴族の娘と婚約を
結んでいた

婚約は破談に終わった
けど、実は当時ロリスは
侯爵の不義の子を
身籠っていた…その
七代目の子孫こそ我ら
が母シモーヌだった！

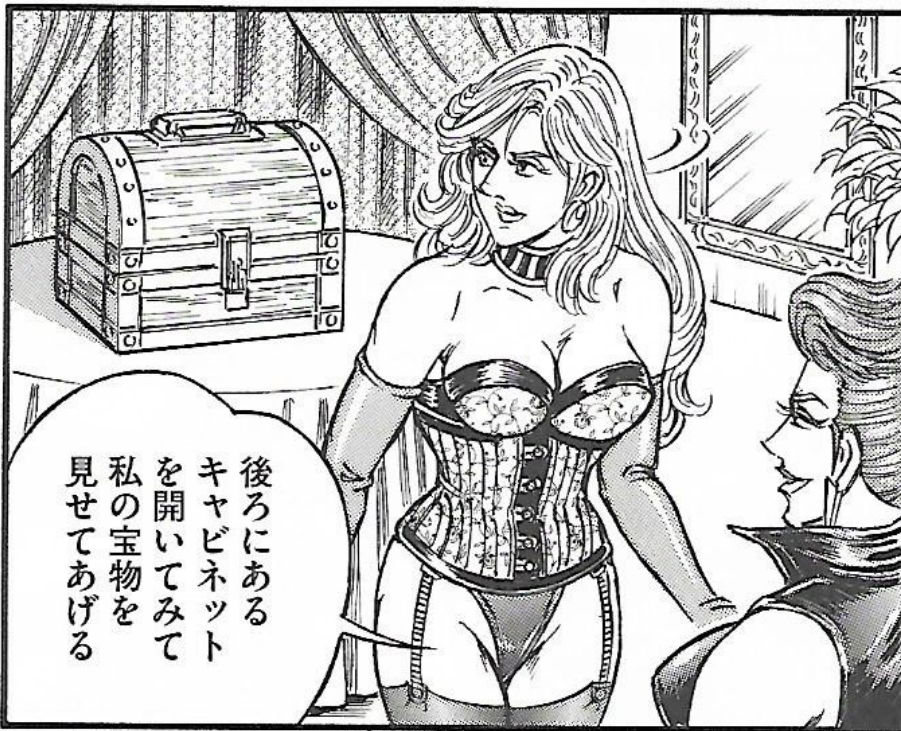


人知れず連綿と
受け継がれてきた
侯爵の傍系の血筋

つまり
マルグリット

あなたも私も
サド侯爵の
末裔なのよ！

なんて
こと！



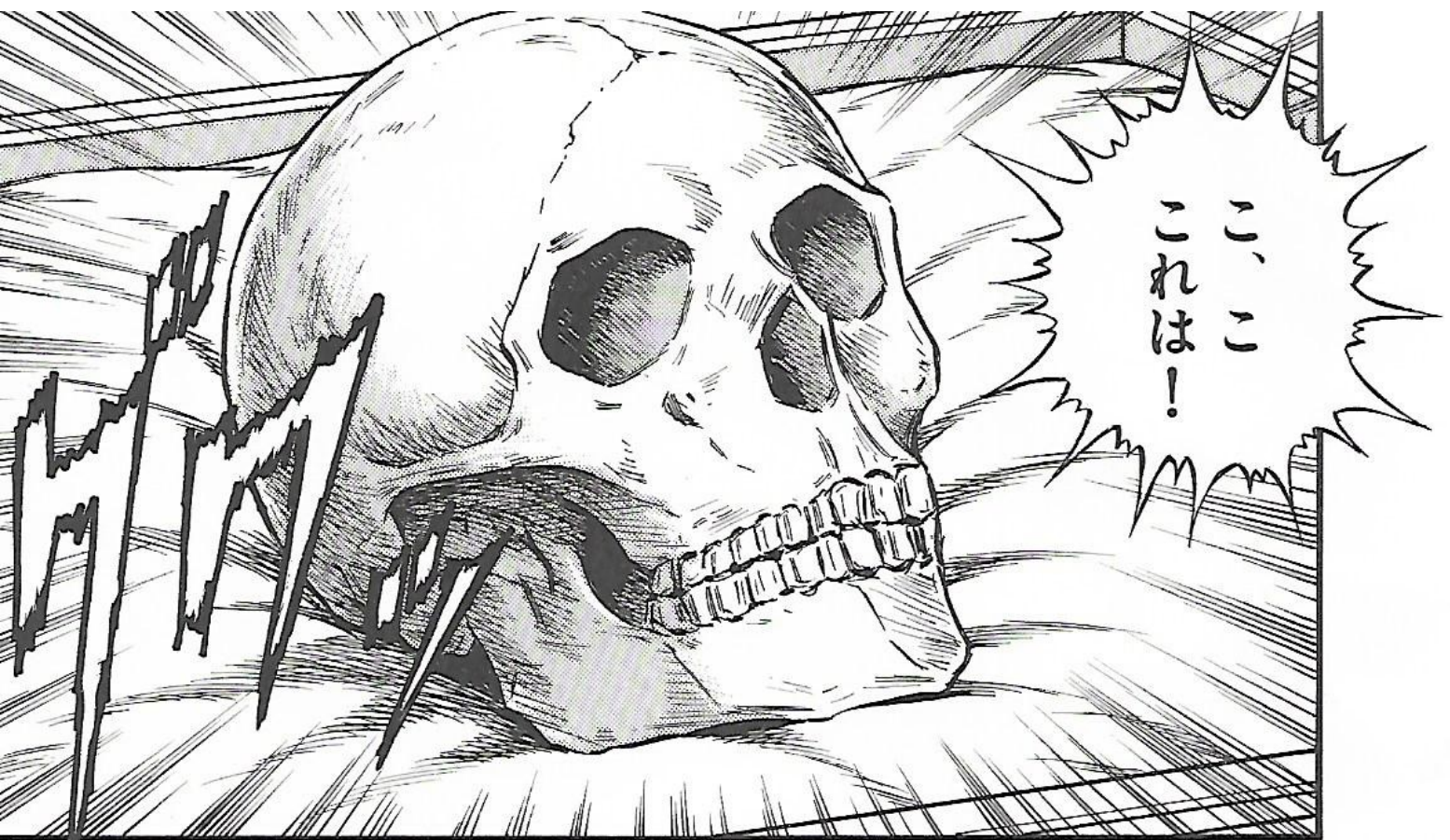
後ろにある
キャビネット
を開いてみて
私の宝物を
見せてあげる



侯爵の長男ルイ・マリーは
革命混乱期の亡命の理由を
「植物学と彫版術研鑽のため」
と言いつつ諷しているわ
——だから私の植物好きも
きつと血筋のせいね



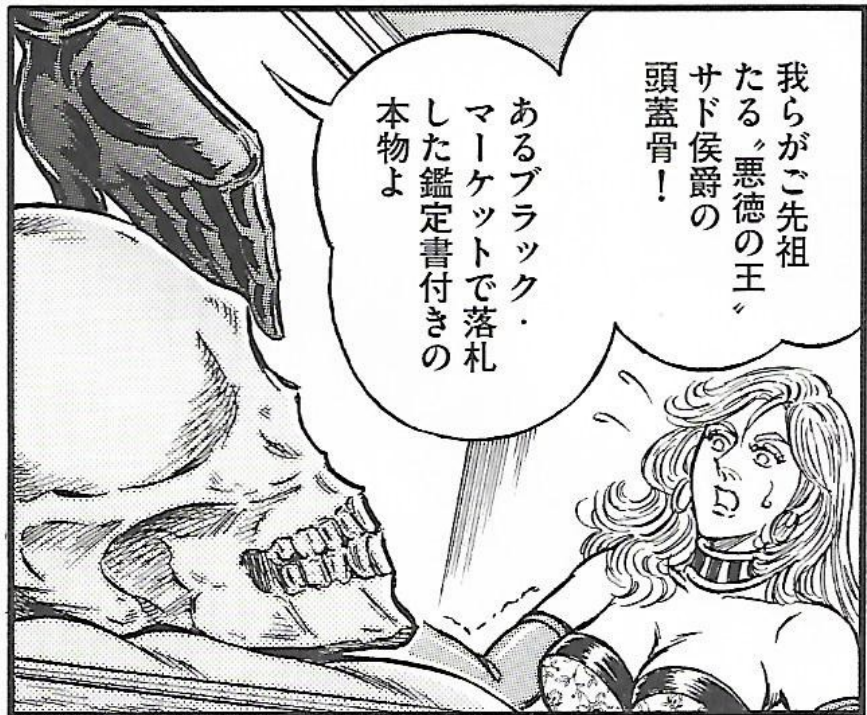
カチカチ



ここ
これは！

《INFORMATION》

サドの頭蓋骨は、埋葬から数年後、墓地整理のために掘り出されたが、学者らの手を転々としてアメリカに渡った後、行方不明になったままである。「たぶん現在も、どこかの個人—富豪か好事家か—が秘蔵しているにちがいない」(流澤龍彦『サド侯爵の生涯』より)

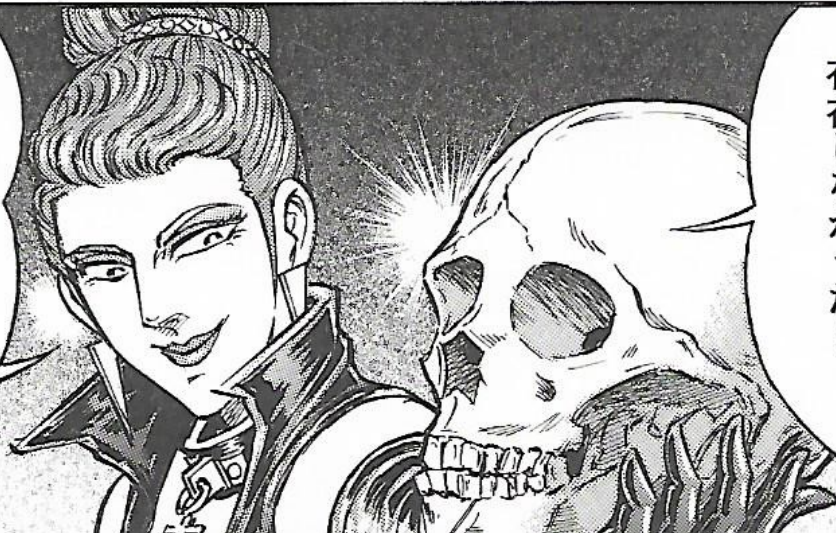


我らご先祖
たる、悪徳の王、
サド侯爵の
頭蓋骨！

あるブラック・
マーケットで落札
した鑑定書付きの
本物よ

この骨の器に
詰まっていたわずか
千四百グラムほどの
怪物的な脳髓が
私たちの世界全てを
作り出してくれた
のよ！

もしサドがいなければ
SMという言葉すら
存在しなかった…





…ええ喜んで！
お姉さん…



マルグリット
— 私が—から
手ほどきするわ

サド候の意思を受け
継いだこの淫楽の花園で
甘美な悪の花蜜を共に
味わい尽くしましょう！

悪徳の絆で結ばれた
麗しい姉妹は、改めて
祝杯を上げた

それはまた、サド没後
二百年（2014年）の
前祝いの宴でもあった

Fin